

自己点検・評価 報告書

【評価対象期間】 自：2018年4月1日
至：2019年3月31日
【評価基準日】 2019年4月1日

学校法人 麻生塾
麻生建築&デザイン専門学校

自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、麻生建築&デザイン専門学校の2018年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

作成日 2019年 3月 30日

校 長 竹 口 伸 一 郎

自己点検・評価責任者

校長代行 熊 野 学

目 次

I	教育理念・教育目標（人材育成像）	- 3 -
II	重点項目	- 7 -
III	基準項目 自己点検・評価	- 8 -
	基準 1 教育理念、目的、人材育成像	- 8 -
	基準 2 学校運営	- 9 -
	基準 3 教育活動	- 10 -
	基準 4 学修成果	- 14 -
	基準 5 学生支援	- 15 -
	基準 6 教育環境	- 16 -
	基準 7 学生募集	- 18 -
	基準 8 財務	- 19 -
	基準 9 法令遵守	- 20 -
	基準 10 内部質保証	- 20 -
	基準 11 社会貢献・地域貢献	- 21 -
	基準 12 国際交流	- 22 -

評価結果

S：達成度がきわめて高い

A：ほぼ達成している

B：達成がやや不十分であり、若干改善を要する（要観察：放置すると不適合になる）

C：達成は不十分で改善を要する（不適合）

I 教育理念・教育目標（人材育成像）

本校の教育理念

麻生建築&デザイン専門学校は地域社会の発展や国際社会に役立つ人材を育成することを目的としており、「使う人、住む人の気持ちが分かり、企画から設計・製作全てを通して業界の第一線で社会に貢献できる人材育成」を教育方針に掲げ、「知性を兼ね備え、責任あるものづくりを通して、感動を与えられるプロフェッショナルを育成する」ことを目指す。自分で考え自分の意思で行動する実践教育により、生涯を通して技術力や人間性・人格に磨きをかけ続けていける実行力を養い、常に自己研鑽ができる人材を養成するものとする。

教育目標（育成人材像）

建築工学科

幅広い建築知識を修得し、住宅や都市環境の創造と保全を通して、社会・産業・地域に貢献できる人材を育成する。卒業後、建築士・施工管理技士を目指し、リーダーとして活躍できる人材を育成する。

また、大学を併修（任意）することで研究部門への道が開け、最先端技術への挑戦など、技術の発展や効率化に貢献できる人材を育成する。

建築学科（昼間）

社会的要求の多様化を踏まえた住宅事情などに対応できる建築技術者を育成する。建築の専門知識を提供し、同時に専門性を活かしながら人との繋がりを大切にできる人材を育成する。卒業後は、建築士、施工管理技士を目指し現場でのリーダーとなる人材を育成する。

建築 CAD 科

最先端の CAD 技術と建築に対する創造性を持った技術者を育成する。CAD オペレーションだけでなく、BIM (Building Information Modeling) のワークフローに特化した設計手法や、意匠・構造・設備等の 3次元 CAD データを作成できる知識・能力を養成する。将来、建築全般を把握し現場を動かす BIM マネージャーとなり、大型プロジェクトの核となる人材を育成する。

インテリアデザイン科

インテリア空間のコーディネートやカラーマネージメント、ショップや商業施設の設計、目的に応じた空間を演出するためのデザインについて学び、インテリアデザイナー・インテリアコーディネーターなど室内演出のスペシャリストとして活躍できる人材を育成する。インテリアデザインの知識を活かし適切な接客対応力を発揮できる力を養成する。

建築学科（夜間）

社会人としての経験を活かし、実用的な建築の創造ができる力を養う。卒業後は建築士受験や業界への転職等、キャリアアップすることで建築業界へのキャリアパスを広げ、さらなる社会貢献ができる人材を育成する。

建築士専攻科

建築士指定科目を履修した者に対し、建築士試験を受験し合格を目指す。大きな目標に全員で取り組むことで協調性を養い、目標を達する大きな達成感を得てやりがいをもって活躍できる建築士を育成する。また、大学併修を選択した者には建築学習の集大成として、卒業研究に取り組み、建築学を深く追究することができる人材を育成する。

ものづくり科

ものづくりに求められる、様々な技術を学び、業界先端技術を以て企画・設計をこなせる人材を育成する。

設計に関しては、3次元CAD「CATIA」の技術を習得し、幅広い工業製品の設計が可能な技術獲得を目指す。

また、プロダクトデザインに関する広い知識を養い、社会的・商業的に価値のある企画力の養成を目標としている。

ビジュアルデザイン科

視覚情報によるコミュニケーションを主体とした、商業的価値のある各種メディアのデザイン及びオペレーションが可能な人材を育成する。

ここに含む商業的価値のある各種メディアとは、主に紙・WEBによる商業広告や、それに関するマーケティング施策を指す。具体的には、業界標準のツールを活用した媒体制作力と、目的に応じた問題提起と解決提案力の養成を目標としている。また、様々な文化・趣向に対して広い視野を持ち、変化するニーズへの対応能力を養い、社会で活躍出来る人材を目指す。

3つのポリシー

（1）アドミッション・ポリシー

設立以来、麻生塾の教育方針には「専門性を高め、かつ人間性・人格の成長を図ります」と掲げ、常に企業ニーズにこたえられる人材育成に努めている。これを達成できる、次のような人を広く受け入れる。

1. 感謝と思いやりの心を持ち、何事に対しても熱意と情熱を持って取り組むことができる方
2. 社会の一員として、職業を通じて世の中の発展に役立ちたいと考える方
3. 相手の立場や考え方の違いを理解し、その差異を肯定的に受け止められる方
4. 世界や未来に向けて関心があり、それに向けて努力を惜しまない方
5. 常に新しい技術や技能に対して関心を持ち、それに挑戦し、打ち勝とうと思う方
6. 将来のビジョンに向けて突き進むことができる方

(2) カリキュラム・ポリシー

建築系学科

建築工学科・建築学科・建築CAD科・インテリアデザイン科・建築学科（夜間）・建築士専攻科

建築系学科では、共通する教育目標により、学生が体系的かつ主体的に学習ができるようカリキュラム編成し、これに従って教育を実施する。

1. 建築士受験科目を共通とし、建築士に関心を持たせる教育
2. クラスの枠組みを超えたゼミへの参加を可能とし、多様な価値観を共有・尊重した教育
3. ICT機器を活用した教育を推進し、建築に携わるCAD教育や社会の変化に適応できる教育
4. 学科の特性に応じた産学連携等を推進し、業界や企業への関わりを持ち、職業に関心をもたせる教育

建築工学科

卒業後、建築士・建築施工管理技士を目指すことを踏まえた建築の知識を修得し、建築業界の多様なキャリアパスを描くための体験や学びを設けた教育。また、希望者には大学を併修する（任意）コースを設け、学位の取得を可能にする教育

建築学科（昼間）

卒業後、建築士・建築施工管理技士を目指すことを踏まえた建築の知識を修得し、社会の進歩や変革追求ができる教育。建築関係職での即戦力としていち早く業界の一員となりえる人材を意識した教育

建築CAD科

建築士となる共通の学習に加え、デザイン表現としてのCAD・CG技術習得、自分の考えを伝える能力、資格取得を目指す知識と実践の教育

インテリアデザイン科

室内空間デザインについて学び、室内環境が使う人にとっての影響を理解させ、時代のニーズに対応し、自分の考えを伝え表現できる能力、ならびに資格取得のための教育

建築学科（夜間）

社会人としての経験を踏まえ、今後のキャリアパスを意識し、自主性・協調性・価値観の共有を実感させる教育

建築士専攻科

高資格の受験合格を目指すことで、持続力・忍耐力・集中力を養い、達成感・困難に打ち勝つ力を養う教育

デザイン系学科

ものづくり科・ビジュアルデザイン科

デザイン系学科では、共通する教育目標により、学生が体系的かつ主体的に学習ができるようカリキュラムを編成し、これに従って教育を実施する。

1. 個人の価値観にとらわれず、デザインによる問題解決に探究心を持たせる教育
2. 教育目標にある知識や技能を身に付け、就業後の業界変化に適応できる教育
3. 企業と連携した実習・演習を通して、社会のニーズに応えられる実践力を高める教育
4. 学科の特性に応じた産学連携を推進し、実践的な提案力を養成する教育

ものづくり科

各種プロダクトデザインに関して、造形・図学・色彩と、幅広い知識を身に付ける教育

3次元 CAD は、CATIA 認定技術資格を目標とし、自宅と学校での円滑な演習を実施し、スムーズな資格取得を目指す。

ビジュアルデザイン科

演習科目は、教育目標にあるメディアに対するビジュアルデザインの制作からプレゼンテーションまでを想定し、実務を想起させる内容を取り込んだ教育

また、学習習慣の定着のため、自宅学習を視野に入れた継続的な専門技術の浸透を目指す。

(3) ディプロマ・ポリシー

本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下のような知識・態度・能力を備えた学生に対し、卒業を認定する。

1. 専門技術を習得することで、それらの知識をより広く、深く、探究し適切に活用できる能力を身につけていること。
2. 社会人としての基本的教養と道徳的態度、職業倫理を持ち、主体的に問題に取り組むことができること。
3. 相手を理解・尊重しつつ、チームの成果に貢献することができること。

Ⅱ 重点項目

1. 重点項目

- ① 教育理念、目的、人材育成像の整備
- ② 「成績評価の方法」の見直し
- ③ 「リメディアル教育」の充実

2. 取組み状況

①教育理念、目的、人材育成像の整備

学校法人の教育理念・目的・育成人材像については、明文化されている。それらを共有して学内外に浸透を図る機会を多くしてきた。学校における3つのポリシー(ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー)の見直しを実施する。今後も日々の教育活動を通して徹底を図り、全教職員に浸透させる。

②「成績評価の方法」の見直し

従来、正試験重視の評価方法で行っていたが、1回の試験のみの評価では総合的な評価が出来ないため、正試験と平常点の平均値にての総合評価に平常点は少なくとも2回以上の確認テストの平均点とした。また成績評価実施要領を作成し整備した。

③「リメディアル教育」の充実

入学前のAOフォローアップ、ASOドリルに加えて専門教科を理解するために必要な数学力を身につけるための基礎からフォローしている数学講座を希望者に開講していた。入学者の増加により在學生に対するリメディアル教育の充実を図りたい。今年度は卒業するために取得しないといけない検定ポイントが不足している学生に対しての検定ゼミを開講する。また、検定の難易度なども変化してきており、その状況にあった検定ポイントの設定を検討する。

3. 総括（成果と課題）

- ① 法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像とディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの明文化ができた。今後は周知徹底を図っていく。次年度のパンフレット・募集要項、学生便覧、WEBへの掲載とともに教職員会議、講師会、学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会等にて共有していく必要がある。
- ② 正試験重視の評価方法を策定し、成績評価実施要領を整備した。学生にとっては、日常の努力が評価につながるため、モチベーションの向上につながった。さらなる評価システムの構築のため、多くの教員より意見をもらい、ブラッシュアップに励みたい。
- ③ 新たに開講した検定ゼミの効果として、参加した学生の多くが検定に合格している。学生数の増加と学生の多様化により、より理解を促すために他のリメディアル教育が必要なのか、分析を進め、必要ならば新たな取り組みを実施していきたい。

Ⅲ 基準項目 自己点検・評価

基準 1 教育理念、目的、人材育成像

中項目 1-1

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【総括】

当該専門学校は、社会の変化に対応できる良識とスキル・知識を備え、常に挑戦する意欲に満ちた専門職として、また一度の人生を大切に思い、感謝心を持って社会貢献できる人材=グローバルシティズンを育成することを目標として、教育活動、学校運営を行ってきた。建学精神に基づき、教育理念、目的及び育成人材像を定め、ルールブック、朝礼での唱和を通して、教職員に周知を図っている。また、ホームページに掲載することにより、社会への公表も行っている。学科ごとに、目的、育成人材像、目標を定め、学生便覧に掲載し、学生・保護者に対して明示している。

【課題】

学校構成員に対して、学校の教育理念、各学科の教育目的および育成人材像の周知・徹底。

【今後の取組み】

「学生便覧」またはホームページ上でもこれまで同様に明示し、学生・保護者へ積極的に浸透を図っていく。職員に対しても、朝礼、定例会議等において周知を徹底する。Web 活用により、学生・保護者・関連業界等への浸透を促進していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1-1-1	「法人の理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	A
1-1-2	「学校の教育理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	A
1-1-3	各学科の教育目的および育成人材像を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	A

基準 2 学校運営

中項目 2-1

学校の理念に沿った運営方針を定め、規定通りに運営しているか。

【総括】

学校の理念に沿った運営方針・事業計画は、教職員対象のキックオフミーティングにて公表され共有している。学校の管理・運営体制は関連部署(教育推進部署等)との連携のみならず、定期的に責任者会議・教務会議・部門会議の実施により組織的に運営されており、各種規定・マニュアルを整備し適切な運営体制を整えている。また、毎年度、校務分掌(行事・検定・授業などの業務上の役割分担表)・職務分掌(業務の内容および責任・権限)を作成、文書化し周知・遂行している。

教職員の採用、人事給与に関する取扱いは、各規程等を整備し、学校法人として取りまとめて、適正に運用している。

【課題】

学校業務を支援する事務業務の整備

【今後の取組み】

今後、学校業務を支援する事務担当に新たな人員を配置し、組織として機能させる。
また、あらゆるリスクに対応できる危機管理体制のマニュアルの随時更新をしていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-1-1	運営方針を策定し周知しているか。	S
2-1-2	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	S
2-1-3	運営組織や意思決定システムを整備し、また有効に機能しているか。	S
2-1-4	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか。	S
2-1-5	人事に関する制度を整備しているか。	A
2-1-6	教職員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。	A
2-1-7	給与に関する制度を整備しているか。	A
2-1-8	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	A
2-1-9	事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。	S

基準 3 教育活動

中項目 3-1

教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育課程を編成・実施しているか。

【総括】

カリキュラム・シラバス・コマシラバスは作成、明文化のうえ共有を図っている。カリキュラム会議・教育課程編成委員会(職業実践課程)において検討、実施している。また、授業報告書により進捗状況の確認を行い、教務会議・系会議を通じ、非常勤講師を含め各関係教員の情報共有を図っている

【課題】

新たに整備されたディプロマポリシー、カリキュラムポリシーの学校構成員への周知。

【今後の取組み】

「学生便覧」またはホームページ上でもこれまで同様に明示し、学生・保護者へ積極的に浸透を図っていく。
職員に対しても、朝礼、教務会議等において周知を徹底する。
Web活用により、学生・保護者・関連業界等への浸透を促進していく

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-1-1	教育目的および育成人材像に基づきディプロマポリシーを明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	B
3-1-2	教育目的および育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	B

中項目 3-2

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

【総括】

職業実践課程の委員会にて業界ニーズ・社会ニーズの把握しつつ、カリキュラム会議等においても理念等との整合性を検討し反映させている。さらに現場見学・職業体験・インターンシップによるキャリア発達を促し、キャリア形成をより具体的にするための指導を行い、社会的・職業的に自立に向けた教育を行っている。また今まで行っていた数学ゼミに加えて今年度から検定ポイントが不足している学生へのゼミも実施している。

【課題】

教育課程の体系的な編成。
シラバス、コマシラバスの整備。

【今後の取組み】

科目担当者が中心となって、統一規格（シラバス・コマシラバス）での明文化に取り組み、早急に策定を図る。学科責任者によりカリキュラムマップの作成を行う。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-2-1	教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	B
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容（学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等）が提供されているか。	B
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S
3-2-4	教育方法および学習指導は適切か。	S
3-2-5	授業はシラバスに基づいて授業が展開されているか。また学校構成員（すべての教員、職員、学生）に周知を図っているか。	S
3-2-6	リメディアル（導入前教育、補習）教育を行っているか。	S
3-2-7	専攻分野における実践的な職業教育（インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等）が体系的に位置づけられ、実施しているか。	S
3-2-8	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	S

中項目 3-3

教育の評価を適切に行っているか。

【総括】

授業評価の実施・評価体制は、学生への授業アンケート・担任アンケートという形で定期的に確実に実施され、担当職員へのフィードバックがされている。また課題点があればその都度迅速に改善を図っている。その他にもアンケートと連動した教育力向上プロジェクトでの組織的改善と同時に各科目レベルでも改善を図っている。

【課題】

教員の授業評価を行った際の改善活動の記録などの整備が必要である。

【今後の取組み】

授業アンケート・担任アンケート、各アンケート実施後アンケート実施後のフィードバックの記録を作成し、教務会議の資料として教員の授業改善へとつなげていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-3-1	授業評価の実施・評価体制はあるか。	B
3-3-2	授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	B

中項目 3-4

成績評価と単位認定を適切に行っているか。

【総括】

成績評価、単位認定そして進級・卒業判定についての基準は明確に設定されており、学則・学生便覧(学生のための学校ガイドブック)においても基本的な認定方針・要項を明確かつ簡潔に学生に示している。成績評価の確認を担当と科目担当者で行い、判定の妥当性をチェックしている。

【課題】

特に問題はないが、各認定基準について学生へ周知するのはもちろんのこと、学生自身が認定基準を常に意識しながら授業・課題に取り組めるような環境づくりを行えるとなおよい。

【今後の取組み】

今後も成績評価の確認を担当と科目担当者による二重チェックのうえ評価の妥当性を判定している。また、さらに管理職による確認を行い、判定漏れ・間違いを防止していく。また、退学防止の観点からも各科担当者による学生への更なる意識づけと、教職員全体でのサポート体制の充実を図っていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S
3-4-2	各規定に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	S

中項目 3-5

教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教職員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【総括】

専修学校設置基準等の法令を遵守しており、教員要件、定員に対する法令に沿った教員を配置している。教員についても専門性等十分に備えている。また学生数増加に対しても十分な対応を図り、新任の教員には指導役となると教員がつき OJT にて臨んでいる。また、学内研修に加え、各専門分野の研修や指導力向上のための研修への計画的な参加による、非常勤講師会・教務会議・系会議での意見交換、情報共有を実施している。

【課題】

トレンドや流行、技術仕様など変化の早いデザイン業界の動向に対応また多様な学生に対応できる教員の資質向上。

【今後の取組み】

日々変化し続ける実情（トレンドや流行、技術仕様）に沿った研修内容・機会の充実が求められるため、計画的な研修計画を立て、能力向上や資質向上に努める。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-5-1	法令に則りかつ学校の理念・目的の達成に必要な教育課程の種類・分野・学生数を考慮しながら必要な教員組織を構築しているか。	A
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	S
3-5-3	教員の専門性や指導力等の維持、資質向上のための方策を組織的、多面的に実施し、教職員及び組織の改善につなげているか	B
3-5-4	教員に対して、実務に関する研修等を企業等と連携して行っているか。	S

=====
基準 4 学修成果
=====

中項目 4-1

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【総括】

キックオフミーティング時に示された事業計画書によって資格・検定・コンペ実績・退学率に関する目標を共有し、全員の共通意識としている。そのうえで分担した各分野・科目においては個別具体的な目標を設定し、組織的に取り組んでいる。また逐次、状況の把握、今後の対策を実施している。就職率の向上についても、教員間で情報共有会議を行い、適宜学生に案内を行っている。就職率および就職先の質ともに成果を上げてい

【課題】

学生数増加に伴う多様性への対応が必要となっており、退学・留年を防止し卒業率・進級率の向上に努める必要がある。また、就職先企業へのヒアリングは実施しているが、記録・周知・共有に不十分さがある。

【今後の取組み】

各担任の先生を中心として、授業担当者と連携を図り、目標や意欲の方向性に沿ったコンテストやコンペティションにチャレンジさせるなど、多様なニーズを持った学生の満足度が向上するような指導を図っていく。また、就職担当者を中心とし、就職支援体制を整え卒業後の活躍状況を把握し、進路指導のガイダンス、キャリア面談等の機会に活用していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか	S
4-1-2	資格取得率・資格試験および公務員合格率・コンテストおよびコンペ入選の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、教育活動および学生支援の改善を図っているか。	S
4-1-3	資格取得等に関する実施体制およびカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	A
4-1-4	退学率の低減の取組みが図られているか。また結果を分析し、退学率の低減の改善を図っているか。	A
4-1-5	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への適応性、効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	S
4-1-6	卒業生の専攻分野における社会的評価を把握しているか。	A

基準 5 学生支援

中項目 5-1

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【総括】

担任制度による精度の高い学生状況の把握に努め、状況に応じ保護者や関係部署と密接に連携し、支援を行える協調体制を整えている。また、課外活動の人的・財政的支援を行い、卒業後も校友会による再就職支援や同窓会組織としての支援を継続している。さらにキャリアサポート関連の有資格者、スクールカウンセラーを配置し、進路相談のみならず必要に応じた相談体制を整えている。

【課題】

キャンパスライフサポートセンターとの連携をより図り、学生により良い支援ができるよう運営を継承していく。

【今後の取組み】

学生数・クラス編成の変化に合わせて修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制の検討を継続して実施していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
5-1-1	学生への修学支援を適切に行っているか。	A
5-1-2	学生の進路支援を適切に行っているか。	S
5-1-3	学生相談に関する体制を整備しているか。	S
5-1-4	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S
5-1-5	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	S
5-1-6	学生の生活環境への支援を行っているか。	A
5-1-7	保護者との連携を適切に行っているか。	S
5-1-8	卒業生・社会人への支援体制を整備しているか。	S
5-1-9	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	A

=====
基準 6 教育環境
=====

中項目 6-1

教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

【総括】

教員は法令が定めた教員要件を満たし、必要な人員を適切に配置し、講義室をはじめとした教育施設の面積は法令が定めた面積を確保している。また、学校設備機器、教育備品・教具(机・椅子等)については固定資産管理規定・設備備品管理表・固定資産管理台帳にて管理されており、グループ校共有の図書館に各専門分野の図書を備え運用している。

【課題】

学生数増加に伴う施設・設備の整備。

【今後の取組み】

継続的な設備・機器の管理・老朽化した機器の入れ換え、業界の人材ニーズに沿った新設備の検討を進める。
担当者が年度の切替え時に学校設備・教育備品リストの最新化を図る。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	A
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	A
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	S

中項目6-2

教育環境を適切に維持しているか。

【総括】

現場見学・職業体験・インターンシップといった職業現場に触れる機会を設け、より多くの機会創出に努めている。業界理解・職業理解を促すとともにシラバスに沿ったグローバルシティズン教育を通じ、学生自身によるキャリア発達を促している。また、学内外実習時には事前説明会を実施し、安全講習の受講やヘルメット着用での実施、災害傷害保険・インターンシップ保険へも加入している。安全管理の整備においても、管理者を設定しており、危機管理マニュアルを設定している。また毎年、避難訓練を実施している。

【課題】

インターンシップについては、実習依頼書や契約書などは実施されているが、インターンシップとカリキュラムの位置づけが弱く、整備をする必要がある。またインターンシップ時の緊急事態に対応できるようなリスク対応マニュアルが作成されることが望ましい。

【今後の取組み】

インターンシップのカリキュラム・単位設定の整備を進める。
年度の初めに新生を対象とした避難訓練の実施を行い、教職員・学生共に施設運営の安全利用を確認する。
また、インターンシップに参加する場合は、事前安全講習を実施し、危機管理の意識付けを行う。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-2-1	実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	A
6-2-2	学校における安全管理の整備を行っているか。	S

=====
基準 7 学生募集
=====

中項目 7-1

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【総括】

募集要項をはじめとする媒体にアドミッションポリシーを明示し、求める資質・意欲に沿った学生を募集している。オープンキャンパスをはじめとする募集活動での説明を踏まえ、業界に貢献できる人材と入学を検討する学生とのミスマッチの抑制に努めている。また、広報グループ・学生支援グループ・法人本部等、各組織と連携を図り、入学への体制を整えている。

アドミッションポリシーを策定し、学生便覧によって教職員はじめ学生等に周知し、WEBや募集要項によって社会に公表している。高校生に対するガイダンスやオープンキャンパスにおいて、教育成果を正確に伝えている。

入学者選抜は、選考基準を定め、適正に行っている。学生納付金は、定期的に検討され妥当なものとなっている。

【課題】

業界のニーズに応え、定員数や選考基準などの見直しの必要があるかを検討していく必要がある。

【今後の取組み】

カリキュラム会議・学科検討会議の中で、各学科の体制、授業形態にあった、適正な定員であるか継続して検討していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
7-1-1	入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表しているか。	S
7-1-2	募集活動において、教育成果は正確に伝えているか。	S
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S

7-1-5	学生納付金等は妥当なものとなっているか。	S
-------	----------------------	---

=====
基準 8 財務
=====

中項目 8-1

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【総括】

定員充足率、入学者比率は、改善傾向で、収入と支出のバランス、また、貸借対照表からみて、財務基盤は安定しているといえる。事業計画書において中期ビジョンを定め、部門長が予算管理表にて定期的に確認し、計画に従って妥当に執行している。運用状況に関しては固定資産管理規定・設備備品管理表・固定資産台帳にて適切に管理されている。財務情報はHPにて適切に公開している。

【課題】

特に課題はない。今後も適切な財務管理を進めていく。

【今後の取組み】

引き続き、月次での予算管理の実施を継続していく

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また予算執行に伴う効果を分析・検証する仕組みの確立がなされているか。	S
8-1-3	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S

基準 9 法令遵守

中項目 9-1

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【総括】

校地・校舎・講義室・実習室の面積等、また教員要件についても法令・専修学校設置基準を遵守しているが、学生数の増加に伴い認可時の教室設定では飽和状態になりつつあり、校地・校舎・教室の調整を要している。また個人情報保護規定、ハラスメント防止規定に関しては文書を配布し、規定に従い活動している。

【課題】

生徒数の増加に伴い、今後も継続的に校地・校舎・教室の調整等を続けていく必要がある。

【今後の取組み】

学生数増加による定員、教室の数など管理・調整が必要な状況になっているため、学科検討会議内で検討し適正化を図る。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	B
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	S

基準 10 内部質保証

中項目 10-1

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【総括】

自己点検・評価を実施し改善点を洗い出し、教務会議にて活動の意義や結果について議事録、内容を学校構成員にメールにて周知し、共通意識を持てるよう努めている。さらに自己点検・評価実施後の結果に基づいて改善計画を策定・実施し、フォローアップを行っている。

【課題】

自己点検委員会を中心とした活動がなされているので、今後さらに全体での理解促進を図る必要がある。

【今後の取組み】

自己点検委員を中心とし、自己点検・評価活動の精査と改革・改善体制の更なる充実と全体へ自己点検への理解促進を進めていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
10-1-1	学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、さらに課題解決に取り組んでいるか。	S
10-1-2	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取組みを行っているか。	S
10-1-3	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S

=====

基準 1 1 社会貢献・地域貢献

=====

中項目 1 1 - 1

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【総括】

学校・学科・サークルを通して関係業界である行政・企業・地域・関係団体と連携を図りながら、社会的な活動を行っている。今年度はものづくり科が福岡県警察博多警察署と博多まちづくり推進協議会と防犯ブザーのデザインと配布活動を実施している。また、本校の学生で構成される建築サークルにおいても、福岡建築士会のまちづくり活動を実施している。さらに校務分掌にてボランティア委員会を設置し、学生にボランティア活動を推進している。

【課題】

特に課題はない。今後も視野を広げ、新しい活動を進めていく必要がある。

【今後の取組み】

ボランティア委員会を中心として、今後もボランティア活動への参加を行っていく。また、専門学校グループの特性を活かし、学校を超えた全体での取り組みが行えると望ましい。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1 1 - 1 - 1	公共的な機関として、社会貢献・地域貢献を行っているか。	S
1 1 - 1 - 2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	S

=====
基準 1 2 国際交流
=====

中項目 1 2 - 1

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【総括】

留学生を担当する担任と国際交流センター・就職支援グループなど関連部署と連携を図り、生活面・就職活動の支援も行い適正に運営している。また、海外留学支援制度についてパンフレットおよび担任からの案内にて学生へ周知している。

【課題】

特に問題はないが、留学生・留学ともに数が多くはないため、教務全体での理解力を高める必要がある。

【今後の取組み】

教務の留学生に対して支援として理解を深める必要がある。国際交流センター・就職支援グループなどと連携し、情報の共有を進める。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1 2 - 1 - 1	留学生の受入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	S
1 2 - 1 - 2	留学生に対する相談体制を整備しているか。	S
1 2 - 1 - 3	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	S